馬医醍醐　中之第三

麻布大学所蔵

十之第三

一 桐

十二巻

以上

桐巻第一

一 桐是霧之巻云 卑仲国撰謀出安驥集六十巻内
奇也 凡本唐日本ニ分明不遠道包之秋月明霧隠
以霧云 唯喩臺中之柱不乱故以本字陥是也

答花見柱之事

一 地水火風此四大ハ馬形ニ当てさりとも五ツ之申しと見てる奇也

菜南柱之事

一 陰ヨてにちりく多く法ル時ハ葉半途ニ消ル陰ちりく多く
ハ葉五臓ニ満ル陽ちりく多く時ハ葉半途ニ消ル陽ちり
くるしく時ハ生まり六腑ニ満ル

菜中道之事

一 貧の菜と生姜切菜の菜腐の切菜と腐ノ和
南とつゝ和て腎と腎腐と草生姜と味噌同上腐と腎腐
と草生姜和南瓜菜と和へ切菜皆南

心法附之事

一 腎虚のゝ病と云ハ病馬ひとひて十年の学と世ゝ
ゝ分ゝ分ゝ分ゝにゝて附と云馬十七病に泊生病に
馬毒と毒腐とも分ゝ腐泉毎して為ひとゝ打身と和へ
法ゝ也ゝ生病と云ハ伯道と毒とんゝ也

一 為手牧ゝ百病と別付法毎ゝ白ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
為の病と和へ切菜の毒腐味ゝ法ゝと治せゝ和のる
伯病ゝとも為すゝゝとひゝハ蕎冬牛膝と以治
せゝ為法ゝ歌ゝゝれゝゝハゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
九病ゝ風病ゝ毒ゝ切菜ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
病風病ハ二解ゝ病迄安漢第九云息則風と云也

十八草相書之法中

中一村立味苦辛温ゝゝ有毒脾胃ノ毒ゝ治ゝ大腸ゝ毒ゝゝ
ゝ法勝冷ゝゝゝあゝゝ和視ゝ治ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
菜ハトス毒ゝ好菜ゝ味ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
菜中風刑風法の為のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

第二ニいふハ微寒ニ味苦ク辛ク又寒ニ毒なし 此薬ハ小腸大
腸胃ノ膀熱ヲ去ル のおし淡さり五臓丸ニ清薬をおるゆへ
と云一切不食ニ用又氣ヲモク心腎労を脉称らう如ニ用
第三ニいふ甘草味辛甘温ニ毒なし 五臓のむし 虚ニ時風
時寒とあてゝめ大小便利とてゐるを通ニ腎といふ氣と
りぬといふもかゝるゆへ以ておすと白寒いふもし 寒熱目にすく
ことあふ[illegible]又云むま[illegible]腹とさこそ[illegible]薬
第四 苦辛味にして上膈ニおる[illegible]出ニ[illegible]腸中ニ
のり下[illegible]悪ニ下膈に
又胃膀胱とやふる[illegible]

第五ニいふ甘味甘苦辛鹹温ニ毒なし 此薬ハ大小便大病
と治[illegible]の病[illegible]胃の[illegible]膀[illegible]下[illegible]
利し[illegible]の左右と[illegible]寒熱膀胱[illegible]
冷不合の[illegible]氣の労[illegible]六腑の
悪寒を治し[illegible]息の[illegible]一切長命
[illegible]以一切薬ニ[illegible]膀胱の[illegible]腹の
迷[illegible]の[illegible]用
第六 辛甘子 甘苦辛熱ニ又云寒ニ毒なし[illegible]
[illegible]通ニ膈熱ヲ[illegible]上實と下[illegible]薬 胃膀胱ヲ[illegible]
[illegible]以[illegible]用 又云 血下ニ[illegible]

第七ことらひ味辛苦熱也大毒アリ此草臭シとも脚大腸の
血病の用とすべし〜ちゝ乳とろし病用と為すべし
打ちとい切の毒あんとゝをへかつゆゝ法ためること
第八麻實味甘苦こゝてことらひ用薬人とりたるの乳ちゝ〜る
〜天然の腸とてことを用法用
第九干姜味辛甘大熱シ毒なし〜生ゐる英茶の水の毒と
ちゝを生ゐ毒シ法こ治腸の冷をあてゝめ中焦の血骨と強筋
とをつゝく上実こいもかゝゆゝとの厚結れ毒ちゝ〜一切血
陰服為し丸
第十桔梗根味苦ノ平毒なし〜め腸胃の悪熱と治し

厚のうこゝろ血こ小便の乃ッ治こ下腸の毒ッ治し一切血血シ
ちゝ〜氣といるもに毒たこ苦かつゆゝとの一切厚こるこ
ちふ中毒ふ〜為ていも
第十一ちゝいちこ味苦熱温毒なし〜色上腸の熱と治こ下腸屋
為ると補こ腸とこゝ〜毒出ちゝ血道苦かつゆゝの厚シ
冷ゐる為と治ス人実ちゝ〜又腎といもも
第十二ちゝ味苦辛平毒なし〜一切腸出十五腸のうく
とゝ〜ちふ少氣といふ用薬のたゝとこ治ひゝるあるこさ
け食ちゝ〜毒こけるこの為ふ治ちゝ人為〜中毒

第十三 味辛苦平微毒 大毒 多用是鬼 [illegible]
[illegible] 腎性虚 [illegible]
第十四 味甘平 若酸微毒也 [illegible] 小毒 [illegible] 血
[illegible] 一切血 [illegible] 用 [illegible]
[illegible]

第十五 附子味苦酸辛大毒 [illegible] 毒大 [illegible]
[illegible] 病 [illegible] 脚の悪 [illegible]
[illegible] 下法の [illegible] 用 [illegible]
[illegible] 腎腸 [illegible] 大腸 [illegible]
第十六 [illegible] 味辛平 [illegible] 毒 [illegible] 一切血 [illegible] 悪 [illegible]

[illegible] 右 [illegible]
[illegible]
第十七 [illegible] 味苦平 [illegible] 毒 [illegible] 六腑 [illegible]
[illegible]
第十八 [illegible] 味辛平 若温 [illegible] 毒 [illegible] 腎性 [illegible]
[illegible] 下 [illegible] 右腎冷 [illegible] 中風
[illegible] 用下 [illegible] 脚の悪 [illegible]

桐葵第二

長病及古三病し治牛

[illegible]
[illegible]

茶にても或ハ其色の深茶なりたる事をよろす　大黄ハ二分
甘草粉ハ十二匁　加砂一ちいけの枝ニつ　其色の入て見るに用た
とハいへ共荷ニ掛れかゝもはやき一両入るも宜しまたるさし
腕とうんまを忘るな不てきこ一切宜しきるあるを動すといふ也
第二　麻疹久々やどるゞあさいせんより細にひやしあるなハ
茶よりて用ひやさるなるなハ能くひやし二匁一両茶ハ
縮砂　芍薬　各分　干姜一分　白朮一分　右細末　湯に不斟三匁
一度ニ七分ならし　茶ぐらいねさゝてる也ともせてさや共あらき
能く洗こらし乃虫ある煙粉末みる　かとゝ丸薬と加へ　柳こゝ
てすく只ひとりくこてさんハ胡椒の粉を付ても用ひなる

いりあるへさしこもせらぬとひやてあくゝ三陵の茶ともへし
第三　腹久しくなやこていゝも勝ぐみりじとりゝまし
かゝゝもひちくやりくハ芭蕉毛の色んなるこて衣き
上の腹の皮中ニ入てもしやかなるハ茶とよりく合志け
し　不用せ弗し事　干姜ニ匁　黄連ニ匁　甘辛二匁
茯苓の粉ニ匁　木香一匁　大黄ニ匁　熊のいかニ三いし匁
柑皮ハ二匁　右細末　麦芽は桃木　こもり付さといふもこく
荒之分二匁一度ニ五分も七分もよるよりて用稱を分ハ湯ニ
しも砂ても　あくもせて一両ある出用の附ハせてよさのあらて
下記

第四肉瘤ハ久しくあるをしらせとうけ同にてあつかう
初めハ合もちいるやうなれとも其の後ニあるといへとも
そのいたみハ塩気のしらせとなりて薬ニよハ入にくくさいし
のき痛ありてつゝききせて気れといつけまかりて灌頂の薬ヲ以て

同

第五諸ノ瘤ニ肉薬ヲ用ヰ療ろしめ下ニ丁或ハ二ツ三ツ口の多之
ひ出いきとくのうしらへさる時灌頂のとく肉薬とささとメ
うへしく發療出或ハ経ひき或ハ四さぬきとき立て人の
うらさゝししるに肉薬を出ししにすふそきかめる
とく合ノすも薬とえささてて子ぬくかととひ赤くある也

根をつくし出さころ時灌頂の薬を用ゐとらするへて後に
うめ白粉をまぜて一匁二三銭入て二方五分目ニ二度づつ用ゐし
又後種ひきとそふへし痛所ニハいかにもそのきはをあらく併
ぬきとり肉を色ろしもするこ忌てこれをつくハ穴とこゝろ多ツ
いぬ赤るの志てころハあかりてそふへし　ここさ根ぬけ平人金
ハ肉又その赤乃さの根とぬく色しゆるくあかさ赤と一度二
ぬく色しても経ぬきのをよ夜角一銭　つまく一銭　黄尾ささ
一銭　くるら肉水銀　巴豆　毒ヲ去テ二粒　右細抹してふいりて白帯
も白め帯にそへし　根ぬきたる薬ハいつれとも是に云とも芒
とさとりる也金薬ハ為瘡ちか方ニ吉

第六號ノ疵ハ久クなる瘡れ物の皮脈より高まると云治方
是ハ五臓六腑ともにしみいる虫なるを先療治に
疼薬をつけ灸ハ出しとりそれを腰ゟへこりて尾をさし
熱ハ先百会をさしうつ宮に包と并七処ニ灸し百会
ノ乗のつちにて打ハヽ後にれ流りうつ薬をつけ和らり
ことなりて又ありとハ療治ノせまるハ其の又さのうつる
もとしらの肉リ腫あるハ腎の虚さる虎或ハ流うつへして
うるさしふつけ節そも血を留りなる所を流し血を能く出
しては後より其りさそて灸ニ而る細ニありて又ある所薬ニあ
大毒し或ハ其皮流有る不冷ニ虚熱ニて胴大にも遂ハこへ

好針をさうしとあそて切りて一ニ入ニ針めニ入ゝそてもある
それもなし出すてに後ニえんちいさしきもとうしるこさて其とへ
出る薬とさうし或ハ其外皮流有り毒流り頭おもえ大切なる
とハ流るゝ其かちをこさりなきちやさよを入てさひり患ニあり
右附薬を用早是薬ハ苦薬一兩二十昆二兩細抹下
右細抹ノ毒服候をまつり血一ッ皮薬と蜜入状を合せ書
或ハせてみれ其すて用後ハ季丸にぬりくとも心ハせて又
此の或ハまいろそ藏ノ用合ためあるらハ空季丸に酒も
百日傳ニ云久しく為ニて腫より下に大病あれハて高る
よれさし或ハ梅酒をもとゝ加へ遠し頭よりも遠退或ハ乃

それ或ハ又それ前腹の邊それ熱して腹帯ゆひて[illegible]
上に張りせんし苗菜ともにして縮砂去なり

第七 諸の眼病久[illegible]丈夫なるそこに立て後[illegible]
さしかゝりくへ[illegible]ひち[illegible]もいけ[illegible]さん[illegible]志に[illegible]
血ヲ出し熊のいとかゝさて又[illegible]そこに立へし[illegible]後又外
さり[illegible]眼脈の血ヲいたし後金瘡し同薬[illegible]一服[illegible]
立庵し鍼毎に[illegible]さ後金瘡し同薬に[illegible]加減
に鳥の羽毛鍼ことにさすへし

第八 [illegible]へし[illegible]足の爪もぬけ心[illegible]て[illegible]
[illegible]或ハ流[illegible]くるハ熱[illegible]脇腹の邊さ

[illegible]先に[illegible]出[illegible]て[illegible]悪血ヲさゝ[illegible]
[illegible]九道腎[illegible]の鍼[illegible]血[illegible]の秘鍼と云[illegible]のすこ
し上に同[illegible]脈[illegible]血ヲ出し川[illegible]二[illegible]
[illegible]のいと[illegible]て[illegible]足に[illegible]庵し又[illegible]
血[illegible]久し[illegible]血ヲ出し後[illegible]同[illegible]さて灸に
[illegible]後[illegible]先[illegible]灸に[illegible]の[illegible]
[illegible]て[illegible]同薬[illegible]瘀治の[illegible]
[illegible]庵し[illegible]薬に云苗薬[illegible]葉[illegible]縮砂
[illegible]右之川[illegible]川芎[illegible]赤小豆[illegible]
右細末[illegible]一銭[illegible]壱[illegible]又[illegible]

めニハ松のことりうく薬ノ針ゐ肩肘ゐ肩ニ五日めニハ薤ハ泄ニシ
薬ノ粉乃ことり薬すゐ湯にてのへて肩ニ一滴入針二肩
久ニ肩ゑ肘痛ミハさるゐゐめく外ゐうもひやすゐもい
ゐさるゐおこるゐうしも
第九つくぬきくしくゐやニ哉いうこ志ゐ虫哉ハ几志てら名法めの
まゐ白哉いして口ゐれ能とくくしきの針とさしれゐ也
くさしさて乞し合門より血ヲ出しひやすへし

桐英第三

第十ゐ飛乃事 二三年も二三年もうけいてゐとゆゐゐゐし
とゐて馬世ゐとゐうゐゐ志けしゐゐねゐヲハ薬ニよりて留ゐ

二寸ゐゐ汁ニ切ゐうてとといゐゐもうく焼てくやこさ小灸
まゐしそこ中覚ニやけゐ時薬ニ云太ノ粉ノ黒焼 夫ゐ目量ニ
ゐしと合て入ゐ

第十一腫毛之くしくゐやニぬりとうとこ朱皮治目乃ゐ肩肘ゐ
ゐさきめきてゐれ能ハ腫久ニ外のうこ汁と押ゐと肉薬ニく苦薬
いゐ 干姜ゐゐゐ細辛ゝ毒脈薬ヲ出ゐて湯にてのへ一分肩ニ
綿入へし 又云せてゐさのゐゐさの梳一ニ薬と二味合
皆色のへていゐ肩ものニ三年すゐゐへし 針久ニ七日ゐ肘ゐ通
ハ酒ゐ下ゐ肘

第十二八ゐ不食ニ志ゐりニ入てゐ治目乃ゐゐ肘ゐゐ薬也と肘薬

し事　いのち法らもろて血ま　閾の出ぬさくと志するとも
はく三寸いふところせん、さき椀一ツ花ツ篩ても切めて
皆て開吉茶ツ三錢て一加へて小胡久に三百すの也
第十三打ちし年毎出るのを毛をさすぐ好りの毛をすくすし
ぬけたるところて治まるとい梅の實式大豆ほどに此に
とく前後ところさまるとこれい字月より本発に前所まで見る
平もらし痛くるツい悪血ツさけてはらい薬ツ上下にさ
第十巻めの浮薬ツらい前所より針とりひらもらつ其の
薬のへまもりて咽もてのへ打ちしの出する所へこそなりて
田淡ツ利いやし　其家も加ねらしらへ食し

第十四打身久しくなりて或胸肩腰などはれてくらるやせ
前身の内はらくもよりくぬ打するいまりくぬり薬とらとこ
腰より下或は打骨もなれりし打るいまださ血黄に付て出れ
なしはるい上下たに薬とるとて出しもよの地の付御とす
のひとしあるひとあし添とするし流しとする数へなり
はるとい脈拝と見とくく血とましてはなしてさき薬との
川骨打して粉ツしてあおけいて　荷葉いて下　不入所　十二錢
花ツ細粉してぬるかき一切の食へ田中に服て月にに三度付ても閉
日数い六七日也
第十五てきれ腫花いくへしく散てこそめて小便志ずくいたち也

[illegible]のるに始て接茉[illegible]と南[illegible]のあるとき[illegible]別て法茉[illegible]
事[illegible]南[illegible]天南星[illegible]こせをつ鍼[illegible]ることの汁
[illegible]て[illegible]て細[illegible]分[illegible]

廿十六氣病[illegible]くるに[illegible]法針と[illegible]
[illegible]法ぬる針と[illegible]くし[illegible]し あひとホを少すつ合せけ
[illegible]し 茉[illegible]こ[illegible]

廿十七間病[illegible]くるに[illegible]法[illegible]氣病のてに針とさしあひ
[illegible]汁分る間茉[illegible]こ[illegible]法[illegible]くこ[illegible]七法苦茉[illegible]法鍼
[illegible]て日[illegible]こ[illegible]

廿十八小數[illegible]くるに[illegible]間人腹[illegible]腹法[illegible]根膳乃

汁とぬいめのくるこせて指[illegible]し茉[illegible]山[illegible]粉と部[illegible]
て[illegible]て分る針のこに[illegible]

廿十九肖病[illegible]肖[illegible]切[illegible]変[illegible]て悪血悪熱
あ[illegible]て間破て法[illegible]法[illegible]あ[illegible]て所[illegible]
[illegible]汁[illegible]年[illegible]るとの針
て[illegible]て[illegible]の[illegible]少[illegible]
陽て法て[illegible]
法間こ[illegible]時又[illegible]法て[illegible]
茉こ云大の[illegible]皇英の[illegible]葛[illegible]
る合茉[illegible]

第二十針ふみぬきしくるしむにハころゝと刺て治す　薬こふ
大麦　山椒　ひともし上戸　芭蕉黄連て一段ひやし香良草塗
とも付汁めでたく湯煮ツて加え久しくなやミこらえ出て痛む時
は肉をハぬきとり出て色うつる

第廿二寸白久しくなやみ間下おさへ胸間ゆすりさわぎ何にても一嵗
いきふのとくにおぼえ小かうしたる方へとめやすく用ゆ薬
きつきて腹かわりくるしみ病みして時なくに乳ころ湯にて冷ゆる
せつくり流るに力もり胸の方へと気をやりて治る薬あり
茴香一両　胡椒下　干漆三匁　木香一両　陳皮二両　藿香　蓬莪朮
燒七銭　右細末にして湯にて用　秋冬ハ少もち吉湯にて用

第二十二水際の瘡久しく治ぬには大小様子て治す第廿三行刀にて
こそげ悪血をとつて其上に後杉脂を熱て灸穴あさて見てハ硫
黄ッて付薬を事一　右の数の黒焼一銭　胡椒一銭　白粉二銭
鹿角ハ一銭　呉茱萸　天南星　右細末にして三伏して付
又ハ薤根煎出しキラニ二分と擣てまろめてよく丸上
薬て為悪して結てとく色し　悪血強き多くて三人ハ呉
茱萸一銭可加

第廿三蛇咬疵と云ふさや口の皮腫上疵の薬と付と以テ不治
又ある切二つにてハ　羚羊角中錢　くさきの肉中錢　黄色三
中錢　雄黄中錢　巴豆毒流し二粒　皂莢黒焼中錢　くく

ゑの油に和蓮肉和　鹿茸一枝　各細切にして常
の如くにして薬種共に煎じ用ゆべし
根のまたは切の瘡に付も可用

桐卷牛四

大国日本主薬治集

一　佐馬に牽牛子と合て色黒き牛車と加り　安驥集に云　和
国にとれる黒牛子を合て不苦　安驥集に云る黒色の時に去
て用ゆる也　日本にて黒色シ白せるを別と不称　別名
小列平金と云るを切花五国黒と云也　故に云只黒
ところ腎に腎に心と云也　黒色にて別に云列れ

これ原也　又思心し云る小麦の如く　黒色薬冷薬シ
安驥集に云る書　和国のそる腎腎遠ゆとさとい浮薬
を黒ところを治薬なれい別に云る大麦の如く黒薬
と同也　一名薬シらけを温薬　ひりまて治薬シ腎中病
中に遠ス

一　原佐安驥集にこれ物并黒薬薬　柿せられて眼中に云る国
のる牧るを日本の馬にて日冒腎にいる　和国の馬に
て佐腎腎ミ和人多いり　遠ゆと云信ル深人
と云千義或い和名黒薬シ加ラて叶と云秘れ黒色を色シ以
仲国の切ものの内薬頂或い秘薬は関に千義中薬

書ぬあり安驥集にも又数の法ヲ以味數の薬ハ業ヲと書加
ゆふハ味と平克服心第紀之と云々
一 則宅ニ安驥集の寒ニ入ヌ云冷二薬ハ温薬補薬となすへし
てりし皮肉や重きハ悪血と去らて是も服心し云大圓に馬
膝腑ニ微冷ニ生ても枯ヲりあるニ以所は皮法多り痛所ヲ
わらふかろして冷ゆ腑と胴へこの補薬也 和國のゐるハ膝腑
生ニメ実せは為ニ湯薬とらへぬ重ハ皮肉や重き志ても実ゆ
以合退と謂る血悪脹ニ出ル方ニハ或ハ毒服味も生いちや
一 圓ニ咽の水或ハ並汁かとの宅を薬としてらへぬ重ハ人やよく治ス
肉能ニ冀ハ草或ハ干姜或 ニ大門冬陳皮青皮 飲類と安驥

集ニ出とす 仲国の云大國の馬冷解ハ生ても虚之脾ハや
とす重ハ脹ていとむきろりて也 和國のゐるハ法膝留出ハの虚し
多いぬ久ハ拍ニル温薬ヲ云只脾の為と治もる平薬とらハ草
一 ハケれ此合安驥集ニ法の平薬或ハ胃腑とやしろハ或 治ス
ハ悍胃と補あてめはのとさとす 和國のゐるハ膝腑浮ゆり
出へ虚としす重ハ悪熱ニし出合哉りす例ニ方ニハ腑とそう
しまし ハケれの傾けはいくすいるし ひと奥ニ或ハ咽の水
一 付数の宅のハ付て与則平金ス
一 すし白ニ干漆或ハ呉茱萸或蓮肉付数の平薬と安驥集
ま書抄和國ノ馬膝腑症ゆ方とへの薬此ニて剣或ハ

茶ふうしと云り茶也毛ろの庵と云ふ者の形はしと云
法ないうも味あらうかと也いさ〳〵

一 西脇大國に見も茶ふかあてめ補或ハ辛味ふ
味とも和ふる男ハ脇腸虎人ハ西也と性強
うて然のい苦辛村立塩此ハと加て法の其色屋
一 牙用安驥集に温茶ふ与ハ所筋と和ふ或庵に所ハと
たさとに木とうとし相ハの加減〜水とたさ入ると
ぬして皮筋とるさやうふるとそハ腹中虚弱ハ表ふ方を
以皮筋とやうけあるもハ脇腸不病和ふ乃
ふハ脇腸陽ふ和と以法茶陽茶ふらぬ皮筋のつうう

ぬ脇腸やうれ則花眼四〜云水ハ入皮肉骨髓をひやし
を一面ん方ふ之法茶ハ用
一 毒藥の療茶安驥集に陳皮青皮二千義けぬりて方を
病おあてめ藥の病と云大石茶ハ法けぬ新一面和
國のうたれ面世をこれも脇〜まけうる方人仲西の合藥
病と用汁潤の水豆の汁けぬと大色ふ〜粉茶指義
根葛粉山歌の平茶冷茶ふて用汁と加減に用人同毒と
あるもうふ古面ふてんじうる胡椒或ハ良姜附子ふと
はなふの七ツ茶ハ合用人毒ハ肝要也
一 大内安驥集に毒と不ふらうに毒風といふの茶ハ用

温茶之和国のるわ當せを刻みてさ川へひやしのるくい
水をたうるかけ二百も三百もひやし一毒服味素白皮と為
そもそもそもそもけくうて仲国ち風病と養生一
ぬるふるはいよ茶わ高せを痛治ヒ不叶る事ハ死ちくなる
時許あり以生て山ちる国村ハ大爲ちうたにちう言ハ
ふこと時則治を乞と以ち治ス病と治ス

一 則風安驥集ニ毒茶冷茶ハて治るとあくあつうすなこと
動ものと禁ハ元ちう外針灸と西仲国し云息ちわこさ乃血
シハ六変ちけくいに治ス毒ハ和国のるハ腰腎ち西国習
一 息陽元も安驥集ニ毒冷の茶と用痛治ハ一和国

ノるハ腎能ちくさハたうて病し常ち茶汁て治
ちて下腎の秘灸ちうくく灸こと後茶どういを刻ち

桐之巻第五

牧馬場馬加減し事

一 牧る老る弱た茶揚て時し刻毒一
一 場うるいたる弱た茶ち色小ちたもたく加減ちる
ぬくうて

一 四ケ場ニ死見揚し支
一 馬笑ちのくこ刻ハること死るよ事
芸二月ちうち去ち切ハ 巻二月ちうち去ち切ハ

秋三月凡そ玄素丸すし
を三月水にて去るべしともすす

丸薬の事

一 息止めたる眼点に目ぬぐとまぶたをひへ合らてうんちいきく
ゆり屎屎燥しはたらくるとゆるとき去と知へ

一 舟の皮はがり歯さこひ為のりまをあるところにはんて外
形はるゝ去とり去と知へし

一 大黄薬服てゆり力をけ和れ付つさ立てるゆ〻ふんて
ちも立てるこ況ひらく立てゆけてくこと動ゆ力み
ぬゝくとゝゆる況と凡そゆり去と知るゆへ

一 大小便利ちくるゆくとゝたなくこうつはあるとへて産や重
てこゆるゆくゝまんて大便おらしし底のあるこゆもすゆるこるや
くゝみゝ力みゝ結毒及の筋もゆらくくゆることてけつもゆり況や
らに丸ゝ糞のゝ色を丸れ白こ食の月の前てゆ白ふ色
ゆふ赤ゝつゝるゝゝにてゝまゝ色をもゆてゝぬゝゝ熟ふ重
いこゆ況ゆ屎あくくゆ毒ふゆくゝ消せね根ゆと水ゆ
ゝとて知ゝケの時丸の丸屎ゆ并去ゆ色ゆり

血脉八道辛様し意

一 浮脉成て息数ゝ序ゆゝい色こ屎ス色い五臓ゆ重て
臓熱皮肉ゝ入ゆ也

脈と同病にして浮なれば心沈脈となる時は五
内の悪血内へ入はまと浮脈となりて血とれぬ
あらためぬ血を脈中にかくしつゝ血をかけまい治する

一 沈脈なれば息たゆさとなり熱ゆえ血とれ〳〵されい血ぬ
脈へ入熱し息たゆさ時い血筋ノ血管へ血〳〵も脈行沈也

一 石連の脈癍の脈ぬとゆるまるふまりあるくるもあり稽
引そ血のみくゆること脈筋とあるくもり或い変板にふこ
こ有て打は熱い廿一日こ内ふこふ立てこの時云脈
筋の内おそさいり後ゆるる血ふるの内あり石連の

脈へ血袋の内ふうこふ立て後ゆき血袋と皮の間ましてこふ
立ゆにさいつい打所れ悪血とて知也

一 竹筋牙用の脈ぬとゆ肩ゆ負或いまりにゆ負筋ノ
多〳〵ゆるゆつる養生ゆるる血筋ゆ血ゆ筋ゆるゆ〳〵
ゆ筋の脈のゆ〳〵只ゆ立時ゆ肩ゆ内ゆ負ゆ
ゆるの竹筋の脈ゆすゆ〳〵ゆ〳〵也

一 麻信の脈悪脈ぬとゆゆ〳〵ゆ皮癍癖功ノ後面ゆ皮
ゆれ毛立癍ゆゆる時必ず血筋の内ゆ血癍入也ゆ脈の時血
脈へ癍ぬ血ゆゆゆゆゆ〳〵ゆ時血筋ゆ押て只立ゆ必麻信
のゆ〳〵ゆ筋ゆ白脈ゆ指ス只癍血筋の内ゆ落也

一 代脉三日病れ脉といへど頭れ道の色に癍出色癍色熱色
血蒸脉とて下時に血蒸の内うつ下也うつ時は血逆色血熱色
癍下多の時代脉のごとくなれども脉有てうつ也只胸の色の
血癍悪癍出る時の代脉於て色三下同前

一 滑花脉陽腫皮肉熱こ髓色とうつ大打所の時於て

病治たるを一道とこと事

一 皮肉の病筋骨の病に移時に筋骨に病ス

一 筋骨に病腸胃の病に移時ハ腸胃に病ス

一 結る脉結出脉移時い色に出て加
茶加減色に傳云法る脉結色出色ものち

辛金ス色結る移時に茶色ジメ辛子を加色脉結移
時に加茶色ジメ干姜白茶を加皮肉に病筋骨に移時筋
骨に病ス云筋骨合は色に皮肉治ス脉中異国か
色ハ筋骨に治色は部の中茶汁の根色の加茶と不敬と云

相之巻第六

外起之巻

一 馬とかたる時に常癍てりて腸肩陽に出あり
いるあるいは出色同あり出色あるを
ちる時に癍色ひせらん
と云時に癍のあり我身のあるあるの汁を合て歩に

寄て抜とるる時こうとをこののしめしめひかつけ安服に
押入竜一則ちまへ〳〵ゐる時息あ〳〵ゐ家けるゐ
ハ
ハ〳〵ひとゐく入竜一ゐこのゐる〳〵とゐくゐら〳〵ゐとを
竜ゐまを十分に針灸とのゐて早おこまへおこを時に縄
もちロれひとゐ加竜一ゐく〳〵ゐ時ゐてたゐ家〳〵
あたりまて針のゐる所まへゐまを法ゐこと
一
雲門ゐ松ゐる引息ゐする竜一ゐ息ゐまをゐまへゐ
ゐ他脇ゐゐて手〳〵脇ゐるのゐ紀皮のゐ〳〵入時ゐまを
ゐ〳〵脇ゐゐ三ゐを皮のゐく時ゐまを竜一針ハまへの家の
針へゐ方ゐ息ゐまゐゐゐる時ゐゐ〳〵息ゐまゐて

ゐまへ〳〵針ゐまゐ竜ゐ〳〵ゐ竜ゐて針ゐ〳〵胴針と入て脇
ゐ〳〵ゐ力ゐ〳〵ゐまを〳〵ゐ紀ゐ竜ゐ〳〵ゐ後ゐ灸ゐ
一
胃脇針指板脇ゐ針〳〵トゐ〳〵せゐ〳〵ゐ針ゐ〳〵ゐ
ゐ〳〵ゐる竜ゐ〳〵ゐる〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ時ゐまを
〳〵上ゐ竜ゐ冷〳〵ゐ時ハ血袋ゐ上針ゐ〳〵ゐてゐまゐ時
かゐゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ血ゐまゐ〳〵ゐ
脇ゐ方ゐ血ハ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ
の脇冷ゐ時ゐかゐゐの〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ
一
胃道針針加減ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ〳〵ゐ

けて五六〇〇是は血のうさとして出る血と出るもの〇〇あり
又は間ちがいあるとき書の針すくう一寸或は五分さけて指も
〇〇腫物に赤色ものは〇〇ふくれあつて或は〇〇ら或は赤く
〇〇大〇〇〇

さし中るゝ[illegible]血汎濫なる一切不指

一 眼脉の加減し変只上実し鼻孔白うなるのまうの証拠
疼痛熱しるゝ毎に時に中ゆるかしらと指の
眼病にふすゝとはもの時にめまひ

一 ゝこさもゝこゝ証拠ひこさつまこさゝと指時くゝこさも
ゝこゝる百ゝ内に血筋ゝもゝ毒ゝ沖ゝこさゝ
百ゝゝこゝゝゝ川のけ血筋とゝ絶てこさゝ

一 ゝゝゝゝの針加減し変ゝも上實とゝ毒も時に血筋ゝ切針ゝ
ゝ内の下一寸ゝゝ眼病に時に内に下八ゝふゝ先の針とさ
ゝゝ[illegible]針て血筋ゝこゝて絶ゝ切毒

一 悪筋曲道脉門にゝゝゝ出血と灸すゝ股中へ灸ゝ入ゝ長
病付と灸すゝ章門腎ゝ命 氣塊此影の灸ゝ引息ゝ灸
ゝゝ元ゝ病ゝ塊物ゝゝ内へ入時ゝゝて皮に付出ゝ息ゝ
沈て臓ゝ入ゝ以皮付ゝ時灸ゝ股中に分灸せゝゝ

一 筋ゝ病中風ゝ股ゝ腎虚ゝ影ゝゝの内ゝゝ毒
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

桐之巻第七

目黒出病し事

一 毒ゝ病黄疸出ゝゝゝ灸ゝ病ひゝ毒ゝ出ゝゝ病と

和毒

四ケ之内ニ死相顕レタル

一 ちりて手足冷え水ちりて火ごとするもあり風よりて火に冷もあり火ちりて風に冷ぬる

一 髮毛 爪 歯 皮肉 筋骨 髓 脳 九竅皆各帰去

一 唾 涙 膿 血 津 液 涎 沫 痰 涕 精 氣 大小便 利 皆各帰

水

一 暖氣帰火

一 動 溥 帰風

一 ちりて手ゆくえとりけて骨死となる〳〵

一 ちりて息ハ菜ふるひ菜と細〳〵可用

一 火ちりて手足ふ千美ゆ〳〵しこせ〳〵と馬血草散ハ合ノ内女

はさミと折合用之

一 風ちりて六腑門の兼とする人色い骨死ちりて六腑の

ちとちりて息細ちりて時い千美 皂莢 豆 橘 こんち

ちさ色とあるに合ノ多ちの実ノ名合菜ちりと加ヘ用ル

湯ヲ下用ル 安驥集 滅後の活菜と云人想ノ活菜ハ

大ちりて去ル色と用ハ色い則命と名ヲ人骨死

百ちりて卒馬ハ骨ちりて ちりこの病ハ色と活ル

菜之人云ちりと知とハ人ハ活菜ノ安驥集十八之目の

百菜乃加菜と云も色之骨死ちりて病ハ活菜ノ想

菜五種ニ一種加ル

三草不當し事

一 苟の病に付の茶と例とし[illegible]村色おもしろく[illegible]苟の茶
とゝ〳〵こうし治す病も無くるゝ故七日乃茶も茶色

一 腎虚に苦辛もうしたとゝ〳〵

一 風病に柏葉根も同前〳〵

三相腎毒し事

一 馬ちりにもむ時色すぐるゝ結るゝ清湯に打
所ゝ〳〵色むい合るゝふたゝ小〳〵消せけるとゝ知〳〵
苟の茶 篠茶 そばゝ此三ッ共に腎と以上腎と有茶と
ゆゝ有るゝ

一 篠ゝそ消せるゝ下腎の上に成る通乃病の八月ゝ有るゝ
して苟ゝすゝるゝ色ッハ篠ありと云ゝ底元ゝ
多入てこれゝゝ篠とてこれ又云茶とてけしゝ下ゝ成
茶に云生姜とゝゝて云茶ッ水ゝてゝゝゝ色

一 そゝゝゝ苟て不消ゝるむハ云の色ゝ〳〵ゝゝ
小赤豆ゝさゝそ乃ゝ茶ゝ塩と入て一盃ゝゝ
也ゝ食ゝゝゝ也ゝゝて元用ゝとの乃ゝ食ゝて
ゝゝ

一 苟の木ゝひて不消腎ゝ有ゝ用ゝゝ
て耳の根ゝ成出間ゝゝ腎ゝ腎ゝ茶ハ

山のいもとおろし一人のるに付るものへて十箇所用ひ
て粉にし赤ちらしを毒し一服
一 打傷して死せんことを知る久くくらみと成るあざの
色ぬけたるやうにして死す打身大切と為て俄に打身と
知事叢しさらも治くうなく出血さらに止打こと
して出ることのひまなるものを不て成也
一 血付きこの三所の傷し事 あざの血黑キッ辛るとき肩
より上の血赤白ッ辛るとす胸乃脇脇さんけつ茂茂
血赤ッまにらう方黑ッ黑筋ちらてあるい辛る也

桐卷第八

十七病辛苦し事

第一結るちゆそこの二つて用苦し事 巴豆 毒れる者 ちそそ
ひこうの根こゆ大黄こゆ芒硝 芒子 右細末
毒反秋ゆ中ニ吉部して千箇し十八箇もるでうて用
第二内疝辛苦しうす丸にく七粒スリテ 塩貝用塩貝粉
黄ッ丸にしゆるあのへうく灌頂苦く用ひうこう千箇加テ
つゆ七箇用ニ交ちつて用塩貝粉ハ白黄ちて
第三尿結用辛苦し事 灌頂苦ハ父ちの作る粉ッ丸
鯉ノ粉ノ爲ちゆ丸ちゆ しこうちうく丸加テ白ミテ用春夜
新の内ちいの内と白て丸ちと三て用へ

才四毒草辛菜し事　　さてし小右の方へ生姜を
つきくゝ圓のもつてけて右菜ゝ浸せて日ニ七八度用ひ
七箇ゝあつけ菜い辛菜ゝさらに和中湯たゝ右
才五八ケ月ゝ不食ゝ右ゝ小粒湯の菜ゝ用ひ食糠米ゝ不食
粥ゝ菜ゝ云　夜角ゝ及　葛ゝ及　ちんぴさいゝ及　芍菜
吉仁一粒　右細末ゝ圓のもつまいつゝの黄ゝ湯ゝての牛
膝ゝまつ黄ゝ湯ゝとつゝ及粉ゝ丸せて後茶
と一箇ゝ二服入ゝ度五箇し日ニ度用ひ——
才六眼病辛菜し事　　たこゝの黒焼ゝ及いの甲ゝ
ゝつてゝ中ゝさゝ小ゝて　麻脳まつ　生薑少　塩梅ゝ及の耳

黄蘗ゝ及　熊のいゝ右細末ゝ丸ひてゝ及米の粥ゝ梅
酒ゝ服ゝ　初ゝとゝのて吉仁ゝ粒ゝ　ひゝ　てゝ後て粒
才七則寒辛菜し事　葛根粉ゝ及　根粉ゝ及
粒薬根ゝ及良吉ゝ及　右細末ゝ吉仁服ゝ
箇ゝ二服入ゝ度七箇ゝ及

才八牙用辛菜し事　嵐蕨ゝ及黒豆ゝ及　吉仁十二粒　黒豆
葉ゝ及　山芋花ゝ及　千葉下　昊天蓋ゝ及　右細末ゝ用ひて
つゝ立ゝ度ゝ七箇日ゝ二度ゝ用
才九針ゝ及め辛菜し事　　黒豆　辛金の黒ゝ小粒
水銀ゝ及　是ゝ如菜し志ゝ銭の用ゝ付ゝ口佛ゝ

第十 鍼折 幸薬し事　針ゆめのごとく付内薬に法ノ
油少加テ女のきうりてのごとし荷物に荷物
第十一 大きつこと幸薬し事　先七日空腹ひとりひてこと後
ゆめと炙し灌頂の薬、苟薬ッ女味二女物の油少合女
のきうりて劑
第十二 依ノ瘡ノ幸薬し事　灌頂薬へまきうの風毒に五
粉白鬼おけかずの残合薬ノめ書うつ
第十三 腫物の幸薬し事　灌頂の瘡乃内薬ニ川貫ノ
粉赤豆ニ粉 馬角豆ニテ加ヘ中分
第十四 依し悪瘡ノ幸薬しうつ　かうひ薬あく所の
つ合ノ男のきうりてうつ
第十五 依ノ瘡の幸薬し事　発瘡毒、丹礬下塩加
テ粉ニ法テ付
第十六 血とめ幸薬し事　騏驎血 狼の目玉是とう紀
ゆうう徳のうらうに合油ニ未分
第十七 宅熱の幸薬し事　一刻相傳の薬ッ毒をのふ
因熱ノ〜ハ豆腐けのけ女腐ノ水にて用
七瘡好薬し事
第一 関毒ニ成た灌頂薬く半夏毒ニテ
てう加テ用是ノ別薬の大事ニ成
ひとり川か　川芎

分二ぶ五上中下共に灌頂薬（芍薬ひと合ノ三二分と合
それとこれら一分と大黄合て那とて大色と用ル）
分三血腫ていてそれる薬　柏薯根　紫蘇葉これら
葛下　ちんぴさいる　右薬ノ國ノ水こよか加て皮薬一箇
一煎入ル用ル

分四八ケの不合し薬し事　大黄これ　うこそうとの粉これら
牽牛子これら　柏薯根　右細末ていうこと　黄ノ
國ノ山ゆくとのて斗三ノ箇で煎入ル変て五箇て用ル

分五目の病をうこうこと針ようあたすこと指ノ縄ノ法
ぬふさあくく打ゆひでこさけうこさて右色平合

（水紙ノ如ク國の山ノ部てゆくくとノて付
分六眼病し薬し事　打月要月ていこ用金傳の薬（龍脳
一朱　麝香少　宝ていこ石一朱加　常のとくこさ）
分七一切血の皮法ようこる薬し事　芍薬一兩　干姜これら
人参下　縮砂これら　右細末ノ少使てこうこ）

桐巻第九

藥當様十三ケし次第

一　為癒毒方赤毛白毛ニ黒あて色ノ為毛ていこ
新ぶひの為陰陽こるこうこ毛ニ日黒ていこ用前

一　月薬の當様月ノ出ける前の薬ノ上薬と毛牛の時の

茶と中に茶ゆ数の茶と下茶とを

一 冥土平金し南板あんいあつこひやしこをうふ冥土平金ッ方
茶之あつる時ゆるとあるく動らを通てやうて付し和南附
藤の上とゆいて付る也ひるも右

五ケ之灌頂南様し事

一 茶ゆるの茶胡麻数上右和中右半時下右之
一 西脇茶ッ南附内てあてもかてて右ゆ之久つ右ひる
ゆ茶下右

一 内殿茶何附ゆら内殿おを臭ふさゆ咽煙息あるく
歌の内ゆ牧い糖ッ何てゆ後藤と附鳥頸腰脇ゆくを

腎と痛ゆゆゆと三ゆひたるのゆ死ゆるく癒ゆ茶ゆ
ふ色

一 癒ゆ目茶ゆ又云癒細ッ扁附おるふおつて二日ゆ六安
ゆ方附癒大ッ右ゆ三ゆ三ゆ茶ゆ茶ゆ

一 お淋ものせゆらふ和ゆ大服ゆ附の内ゆいるく二癒ゆ
ゆもゆゆん色

附三ケし針附茶ゆ事

一 附大ゆ方ゆもゆらゆ皮ゆまく嚥め右ゆ少ゆ大ゆ方
皮ゆゆゆゆ西ゆ皮ゆゆゆ和ゆ内ゆゆ
一 主張ゆし三ゆゆ入和ゆて三ゆゆ付ゆ又附の皮ゆ

くこの毒ものく腫さるゝ針とのゝ世針ゝはもと
ゝいゝゝ口乃ゝゝ川海りてねのめとゝら汁ゝけて指ゝ
あゝとゝゝり出てゝ後ゝ見ゝ手金ゝ分ゝ細ゝ冷ゝゝ
指ゝ又云ゝ皮もあゝくゝゝゝたゝ腫ゝ熱ゝ玉のゝゝいゝく
て押てゝ金ゝゆのゝとゝゝゝ

一　面すれば交草の中にまらひのいとまもなく
一　内裏に川芎うゑたるひ志ろきのいとまもなく
一　もろこしなる花よりも也豆のいとまもすくへ
一　針モ刀ありとそんもうのいとまもすくへ

呪ニケの口傳

一　佐のもしるひとすり時ものと細て用ひるとい丈あつる
時人体ニ名ホ下茶ニ同し
一　はもり時ニ夜るとい深ニつらく法しりへ知ひあるもしく
ものとしゆるうもし
一　をるい物といるもあくつあ法ろく志ろいて深ものめ
後ニ者のもろもてをおいくふ法ろうれ志ろへ
てをも

血辟シまく知り

一　白ろ法ろ法ろうホし知ひあるのとまろいるもの血
さえふとおりひいさんなるまへ　有口傳
一　癰ろうさ久ニかろへろを知り上下ものるくれ
ととまもし大ものけいの節かかるをた
ものいとろ法ろ法ろ久ニ法ろめさいろ法ろいるもの
ささわ中ものろうとて知法りとそ
一　面腹ニ者時ニろうホ是かれ法ろ腹ニて血ものと

一 結石養ハ出ることあり　いまだ久敷ようすゝ
一 尿結鳥淋ようさゝしゝ症
一 肉毒ひそうよ栗柿ようやくと吹ハ治之方
一 為病風病にたのゝ方ハ為ハ病ひとゝ色
一 流眼病用ひようくゝ大きなるハ治之方

桐卷第十

なまなま道十九病し治ス

第一結馬上中下ニ治ス或ハ生ハ味苦ナ
ルとも一切辛ようよ

第二毒ハ白ハ毒ハ苦辛ノ方温ハ苦附ス
ル例汁ニ耳キハ用此ハ汁ハ病ニ有ること毒ノ
第三服法菜辛酸ノなるとも苦ハ敵味ノ
第四肉毒大ス味なる道ノ年ようよ
第五瘡ニ菜辛苦ニテ汁用ス味ハなるとも酸物と一切
いも
第六為ようよ和菜ようよ一味と加ニなるとも一切ようよ味
と柿ハ
第七月の肉菜付菜ようも苦ようよ味なるとも辛ハ柿ハ付菜
に汁弱キなる

第八別色則論別風温之禁ス辛物ハ道ニ成ル時
ハ[illegible]ハ但毒菜合スルトキハ[illegible]
第九中風辛味ヲ禁ス少々苦キ味ヲ本トス
第十八ケ不食辛ヲ去苦キヲ道トス
第十一切ハ[illegible]苦ハ辛物トス
悪ケ[illegible]ニ[illegible]付ケ[illegible]ス悪食ハ
[illegible]
第十二大ニ[illegible]ハ[illegible]ヲ[illegible]ハ辛キ味ヲ禁ス[illegible]味ハ
道トス[illegible]ハ[illegible]
第十三[illegible]負ル辛物ハ[illegible]ハ道トス

第十四折脚ハ[illegible]ハ[illegible]ノ如ク苦ク辛物ハ毒
第十五岡下ス白辛物ハ[illegible]ハ[illegible]
第十六肾ノ虚ハ[illegible]辛苦ハ[illegible]
第十七腸内[illegible]辛物ハ[illegible]
第十八一切毒ハ[illegible]ニ十義ヲ知ルトキハ[illegible]
[illegible]辛物ハ[illegible]
第十九ひりる二耳ハ知ル道

九道之豚ハ[illegible]

一 [illegible]豚毒及生ハ病久シ[illegible]
一 入豚多生ハ病長ニ去ハ[illegible]

一 青動の脉を生ずる病人 安し

一 滑脉交の脉 陰陽ともに病人

一 沈脉冬の脉 陽陽ともに病人

一 沈弦秋の脉 此脉春生ずるなり

一 石連の脉春の脉 肝脉秋に出る 癍痘 飛尸 溏

一 麻痺此脉冬に出る 陽陽ともに死す 早死

一 代脉交替の間に出るの間 死ぬ 死 悪 去ぬなり

代脉 四時出る 三日 不治

五法度 事 血方 三つのもの

一 血と外血とに時 一息もせあたらざる血 ながれる 不 事

一 久 ながれる血 ながれる

第三 法

一 寒病 七味 歇味 脂 色 ながれる

一 生病 七味 歇味 脂 色 ながれる

一 一切付 茶 飯 物 ながれる 不 事

寒病生病 加減

一 寒病 茶 色 ながれる 時 脂 補

一 生病 ながれる 色 ながれる 事

相巻第十一

牛馬呪 三脉 法

光一平なる事を目とせはじめ世はけるもしるひのくの
我宗尊を馬ッ引立仏に光梵字ッ方こそはくはなこ十
六書おくあこ後宗尊慈眼視衆生福壽海無量ト
二十返濃り手繰ッひ合を南無五大力菩薩ト三返足
てう宗生ス人むかの人引迫て宗也
弁二祈やのはるさてるの事——祈やのつるさてるとこそ孫
宿野原かとてるッつるさて人よそらをめてるり也
るとはるさてるつるの下に我ものと右のくて
くと上ッとくを——右のくをたのつるさめの下にそま
ゆ玉ハ指て用け字ッをさわたのくに書用之と
右のくのくきあ書馬ッひくすはの指にく來之ッ
二書南無光深明をと丈一返ハそり我我胸通
之ッ二書ハ之ハ長良一巻ノ大事ッもを判宮ハ
ふのもとこそもを軍書ふすこの巻ッ之ッ書也
弁三我宗るこを目宮是扁ハとひてけどるを秘法す
宗ハとするを五女のまッ引迫て五眼ッ光ハ字をひ
ッてこて宗尊——又意ものはしにひて一ッ
之ハ的通照十方前生宮是ものとこ返みてん宗ハと
すの時南ッ大巡觀世音ッ二返海宗——觀念ッ
觀音ノ中座ッ坐ッ人珠音買ッに現ッと觀念ッ

大ぜ石傳こと自高ちうそもも不負へ

中ぞちうちうの脉の事 能るゝ引立足胃乃の脉沉ゝ

脉浮ちうゝこと自る脉ちうとふるんふあゝ二胃乃浮ゝ

中脉沉ぬゝ脉ちうまへちうんにあへ眼力もうゝ我形

とんるふうゝまちうんあるゝ我ちうとのちうんと云はちう

志むゝ又云我ちうこうあるゝ必こと自ゝ志ちうて馬

とのまちうへ

悪目祭し変

中五こる針灸とそれゝ必我身けうるひまたるゝんあゝ或ゝ

けうるゝれゝ灸ちうしるひこちう三つ必はこもるちうゝ

是ゝ以後とうゝめて後ゝこと自のこうゝ赤のうゝ速針ゝ

て我ゝもて見ちうたあるちうゝ血と出ゝ指ちへうる縄

(付ゝて血又いうこと)ゝ自のけうゝ赤ゝ針とるけて

ゝの針ゝて血とうるゝ悪目まはちうる汁言ゝに為ちう

ゝちうゝ傳

男速の當振し事

中六馬とるゝんと思ゝて一日一度あちうゝ傳ゝ

時胡麻ゝ油とゝ(ゝちうゝ)ゝ別ちうゝ傳ゝちうゝ

二度とゝちうゝ元ゝ男速のうゝめとゝ云へ

合為九脉ゝ流第

第七結毒ニ尿結合病ニ尿と出ずる脉ふつ尾とさ
ちうりに脉のうちい灌頂の結の菓の牽牛子と云
て桃白皮とうゝ煎ずとうゝ湯にて高ッあとムそに当て夜
してそれと同汁ものあ事一日分也
第八内疽ニ瘡合病ニ脉い灌頂内疽の菓、嵐藁いと書
ちこ〻ゝりテ白朮と加テ用ゆ病たこ則治ス
一 毒腹ニ注馬合病ニ脉い灌頂の毒腹の菓、牽牛子と
ん志ゝ〻〻白のいもと合こめ事一日分
一 尿結毒腹ニ ものい尿注の菓、桃白皮の粉ニ残 然
のいか加テ用ゆ

一 則毒ニ氣病合病ニ脉い利宝の菓、川芎ニト曲香
ニト加テ必ず用ゆ
一 尿注風病合病ニ脉い尿注の菓の内の干姜ッ去テ干姜
ずとうゝしこせゝと加て子ぬ風病たに治ス
一 毒腹内疽合病ニ脉い内疽の菓の内の毒腹の菓ッ
ひゝんとれずと英藥ッ加テ若辛ッ五合ニ煎ず用ゆ
一 内疽ニ尿注結ぶい内疽の菓、干姜と若辛ッ分用ゆ
ゆるの利
一 毒腹ニ風病合病せとんちゝ村立 若辛 胡麻
ようて本分ニ細特ッ毒腹味とちうてゆてけ（有拔菓

と一緒へ入て炙て食ス可日ニつ炙て用

肝病午病ク病しる事

一肝病と云い歌動の豚皮ニ毒あり中ると云うん

て肝病ニ用

一午病と云い豚の毛ん毛もうして毒ス炙て食ス外ち

こさまい今ふり云と午病と知る

一ク病と云い豚ハ皮ニてやらにふるくとんて志

も力多く多くて毒ある食ク病ニ用て時とう

こまるる病ハ病ハ外ニ其ッあること

實腐腐ニ腐ニ腐ニ

第一法馬六匁と志さりにさしむ二日めまて一茶法ゝ〆又
二日ふ屋りゝうゝる屋〳〵又百茶さふる〳〵
第二厚法ケッ志さりにさしむ二百一茶て法ゝ百療法
て法ゝ百一療法茶ともふゝりまろりる〳〵に急と
法ゝ
第三十製三百と志さりにさしむそ〳〵め二日一茶例ゝ五ゝ
ゝらす療法ゝゝりて法ゝ三百めに茶と日三ゝ方例ゝ
第四西服ゝ日ッ志さりにさしめて三百茶ッ例一日辛茶と例
〳〵ゝれも法せゝ宗門とゝ腑ゝけとゝりて茶ゝ
第五早風二日と志さりに宗二百一茶と例又療法と
り二日めぶゝさ川ゝ引入飛ゝ見ゝ中百五のゝ
屋〳〵傳ゝ
第六肖ゝ入ゝり二日と歌ゝ宗和日ゝ茶ッ例てあけゝるに生姜
と茶〳〵時ゝゝゝ鶏塩と加ゝて茶藥と二度ゝゝ汁の椀
つゝ乳ゝて皆例ゝ乳ゝゝ川〳〵入白ゝ屋ゝ五ひゝゝ〳〵
例年金ゝ

長病ケ之変

第一胃虚七十二日ッ志さりゝ小宗茶和ゝゝ序ゝ〳〵
元ゝ老病の歌ゝ療法茶法ゝ首のゝゝゝ法ゝ和ゝ
茶と せゝと未ゝ茶ゝ〳〵

牛二腹内熱ス六十二ヲ以テ治ス

初七ヲ以テ灸シ或ハ一百壮ヲ加ヘ又ハ灸ニ加ヘテ艾葉ヲ煎シテ服スル

あり

とか加テ艾葉ヲ煎シテ服スル

牛ニ中風ス目ヲ白ムトキハ小豆三七日ヲ以テ灸シ

灸ヲ用ヒテ目ヲ白ムトキハ小豆三七日ヲ以テ灸シ

牛ニ悪瘡ス十月ヲ以テ養生ス十ヲ以テ古ツルノ内茅

金ス七日ヲ以テ治ス

ひさと入根ヲ以テ金茅ヲ煎シ根ヲ

くゝ法瘡ヲ以テ治ス

付テ治ス

又称ヲ以テ内茅ヲ煎シ

一 死相乃ち死ス

一 死ニスルの証ヲ知ラハ死ヲ

一 筋ノ病ヲ以テ筋ヲ

十毛五性乃陰陽ス事

一 甲ニスルハ雙用ス

一 戊己ニスルハ一種ニス

一 壬癸ニスルハ盤海ス

右叶何ふと吟ー　病の根なり五臓六腑と毛穴のうると
もちう云出ます（ー）と迫絡し放ぐうー　仲國口傳云
るいと屋ノ時病と知りうるへいきん出れ時刻そこ
ちとこ思ふううありてこ腹あこうふもとといるる
上腑に病をいうん是中こうふそこりうまこ中腑病
ありいぐん（ひうそこ思のもこ思ぐそこりをしぐるとれぐと
ともるい下腑の病ん只傳云うさ治ぐはうとんを大うさ
上腑に肉毒中腑に毒下腑ぐこうん脾或に腎ノ毒也

六病のとうんのう七ケ日

一　肉毒の薬の事　もこんの根　さいうの品種者多

者仁うの類　元と英メ下用ん

一　法馬の薬し事　うもしの称る　さいこうう大英下
石見川ふる右何様メ有る湯うて下用

二　陰の薬し事　風毒治ノ事　もたうこうう
白石の類　梅の白や類　右ある湯して一貫ぐ類入一文ぐ七貫
うん

一　毒寸白の薬し事　狸ノこうも類　苦辛十類
干漆の類　甘草毛ある井尾刻こうて二類　元ッぬる湯して
ぬる粥入てもうこ二下用

一　凡病こ薬し事ー　うしこせ二類　ん（ぬ）の草

の黒焼十錢 つるうめ三錢ひさゝ三錢 右四味ヲ一ツ

一 腎虚し薬し事 つるうめ ひなり てあり て錢

蓮根 毒多くいりて十錢 蓮ノ子十匁 麻十匁錢 右四味

山のいもとあらゝ粉にてゆるめて皮薬と一所に二錢入る

ゝ苟見こゝ安て用ける薬い病つきてもち

六腑こりる病をとゝ毒色薬五病ゝる

一 癪ノ薬ゝ さゝけこゝ 柿活 胡椒十二粒 もゝ

多ひのこゝ 右四味ヲ粉にして二苟見こゝ安て用

一 古血の薬 石ゝ川十二錢 干姜 錢 反角 錢 胡椒

錢 もゝ ゝ八錢 右四味ヲ薬毛るのゝて水に立て用

一 内疵薬し事 山椒 ゝ 石菖 下 川芎 下 楊梅

皮ゝ 右四味ヲ粉にて用ゝ

一 風病し事 章牛子ゝ 干姜 ゝ 人参 下 木香

ゝ 右四味ヲ粉にて用ゝ

一 腎虚の薬の事 薬 干姜 大黄ヲ加テ多通

ゝゝて用ゝ ゝ六腑こ病ゝのゆゝしゝ時迄ゝ

用ゝ病あゝ必ゝゝ病ゝ紀ゝ平馬ゝ

終

天文元
五月吉日

素鴻新大夫殿

中御

坂内源左衛尉久[illegible]